

# ホリスティック企業レポート ディップ 2379 東証マザーズ

アップデート・レポート  
2013年10月25日 発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター  
審査委員会審査済20131022

# ディップ(2379 東証マザーズ)

発行日:2013/10/25

## インターネットにより求人情報を提供する大手

## 14年2月期はバйдルドットコム増収とエージェント事業の採算改善で大幅増益へ

### > 要旨

アナリスト:松尾 十作  
+81 (0)3-6858-3216  
matsuo@stock-r.org

#### ◆ 求人・求職情報事業と看護師紹介事業を展開

- ・ディップ(以下、同社)は、インターネットを利用した求人広告の掲載料と人材紹介料が収入源である。
- ・アルバイトの「バйдルドットコム」と派遣の「はたらこねっと」、及び看護師人材紹介事業「ナースではたらこ」が主力サイトである。

#### ◆ 14年2月期営業利益予想は前期比4.0倍へ

- ・14/2 期第 2 四半期累計決算(以下、上期)は、売上高が前年同期比 35.1% 増、営業利益は前年同期の 156 百万円の損失から 309 百万円の黒字となった。7月10日、9月13日に同社は上期の業績予想を上方修正したが、9月に同社が見込んだ業績どおりとなった。主に主力サイトである「バйдルドットコム」の増収効果とエージェント事業の採算改善により、期初の営業損失見通しから大幅な改善となった。
- ・14/2 期について、同社は 30.9%増収、302.5%営業増益を見込んでいる。上期実績と期初に策定した下期予想を合計したもので、下期の業績予想には修正が加えられていない。なお、事業別の業績予想は公表されていない。
- ・証券リサーチセンター(以下、当センター)の14/2期業績予想について、エージェント事業の採算改善を見込み、前回レポートの利益を増額修正し、同社予想と同水準とした。

#### ◆ 8円の安定配当続こう

- ・同社は、配当性向などの定量的な配当方針はない。過去、06/2 期から13/2 期まで、業績に関係なく年 8 円(株式分割修正後)の安定配当を実施してきている。したがって、当面 8 円配が続くと思われる。
- ・同社は、具体的な中期経営計画を公表していない。当センターでは、上期においてエージェント事業の採算改善を確認できたことをふまえ、中期的にも同事業はさらに利益貢献が高まることを見込み、中期業績予想を上方修正した。

#### 【主要指標】

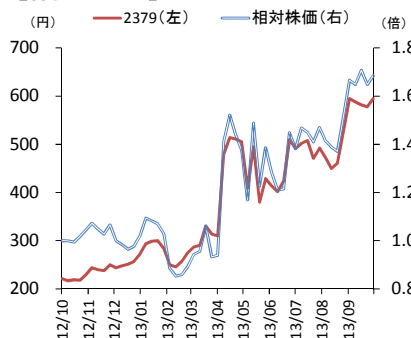
	2013/10/18
株価(円)	595
発行済株式数(株)	12,400,000
時価総額(百万円)	7,378

	前期実績	今期予想	来期予想
PER(倍)	107.0	13.2	12.0
PBR(倍)	1.9	1.8	1.7
配当利回り(%)	1.34	1.34	1.51

#### 【株価パフォーマンス】

	1カ月	3カ月	12カ月
リターン(%)	-0.3	31.9	169.2
対TOPIX(%)	-1.3	25.4	106.8

#### 【株価チャート】



(注)相対株価は対TOPIX、基準は2012/10/19

#### 【2379 ディップ 業種:サービス業】

決算期	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	配当金
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(円)
2011/2	9,524	19.5	210	-33.4	167	-47.6	15	-87.6	1.3	291.1	8.0
2012/2	11,432	20.0	803	281.2	763	354.8	378	-	33.2	316.3	8.0
2013/2	9,142	-20.0	248	-69.1	233	-69.4	61	-83.7	5.6	313.5	8.0
2014/2 CE	11,967	30.9	1,000	302.5	962	312.0	500	711.2	45.2	-	8.0
2014/2 E	11,967	30.9	1,000	302.5	962	312.0	500	711.2	45.2	332.6	8.0
2015/2 E	12,500	3.3	1,100	4.8	1,050	5.0	550	10.0	49.7	357.2	8.0
2016/2 E	12,900	3.2	1,130	2.7	1,080	2.9	575	4.5	51.9	384.2	8.0

(注)CE:会社予想、E:証券リサーチセンター予想、EPS予想は自己株式を控除して算出

#### アップデート・レポート

2/10

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

**> 事業内容****◆ インターネットの求職・求人情報サイトを運営**

ディップ (以下、同社) は、インターネットを利用した求人情報の提供と人材紹介を主たる事業とし、アルバイト、派遣、契約社員、正社員、あるいは医療関係者などの特定の労働形態や職種などの特定セグメントに応じて、主に4つの専用のサイトを設けている。

同社の事業はメディア事業とエージェント事業に分けられる。メディア事業は求人広告事業であり、掲載企業からのサイト掲載料が売上に計上される。「バイドルドットコム」、「はたらこねっと」、「ジョブエンジン」の3つのサイトを運営している。エージェント事業は、サイト名「ナースではたらこ」を運営しているが、人材紹介による転職先からの成功報酬が同社の売上となっている。

「バイドルドットコム」は、アルバイト希望者と求人企業を結ぶサイトで、売上高構成比は71.4% (13/2期) と過半を占めている。「はたらこねっと」は、派遣社員の求人情報を提供しており売上高構成比は11.5% (同) である。「ジョブエンジン」は、中途採用のロボット検索型求人情報を提供しているが、経営資源を他サービスに振り向けていることもあり、売上高構成比は2.0% (同) と小さい。

「ナースではたらこ」は、転職を希望する看護師及び准看護師に医療機関を紹介する窓口となるサイトで、転職した場合に医療機関より成功報酬として仲介手数料を受けている。売上高構成比は15.0% (13/2期) である。同社はこの事業への参入が09年と後発である。そのため、転職希望者に登録してもらうために、同社サービスを利用して転職した場合、転職者に成功報酬の一部を「キャリアアップ支援金キャンペーン (13年2月に終了)」として最大30万円 (平均15万円) を支給することで、登録者の拡大を図り事業育成に努めてきた。楽天リサーチ調べでは顧客満足度一位の評価を得ている。

14/2期から代わりとなる支援制度「Happy ボーナス」を開始し、勤務半年後に最大10万円、平均5万円を一括で支給する制度に変更している。支援金を減額する一方、看護師のための会員制特典割引サービスとして新サイト「パンダクラブ」を開設し、セミナー開催や学習コンテンツの無料提供等、看護師を支援している。ただし、セグメント利益では、後発であるがゆえ認知度を高めるための広告宣伝費が嵩み、13/2期迄赤字がつづいている。

エージェント事業は、従来入職合意時に売上計上していたが、13/2期より入職時へと売上認識時点を変更したことに伴い売上計上のタイミングが3カ月～6カ月の後倒しとなり、13/2期は売上高1,370百万円 (12/2期1,580百万円) に対し調整額控除前セグメント損失は590百万円 (同87百万円の赤字) となった。

➤ 決算概要

◆ 14年2月期第2四半期累計決算は同社期初予想を上回る

14/2期第2四半期累計決算(以下、上期)は、売上高が5,921百万円(前年同期比35.1%増)、営業利益309百万円(前年同期は156百万円の赤字)だった。同社が期初に見込んだ業績に対し、売上高は108%となり、営業利益以下の利益は黒字転換となった。

【図表1】14/2期上期決算概要

百万円	同社予想			実績	期初予想に対する達成率
	期初	7/19修正	9/13修正		
売上高	5,492	5,824	5,922	5,921	108%
前年同期比	25.3%	32.9%	35.1%	35.1%	—
営業利益	-86	101	310	309	395百万円の改善
前年同期比	—	—	—	—	—
経常利益	-109	80	294	293	402百万円の改善
前年同期比	—	—	—	—	—
純利益	-84	9	115	114	198百万円の改善
前年同期比	—	—	—	—	—

(出所) 証券リサーチセンター

注) ネット経由にシフト  
マクロミル調査によると、地元の求人情報を探す際に、フリーペーパーやチラシから選ぶことにおいて、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の割合が、12年度の66.7%から13年度は48.8%に低下したことを指している。

7月10日に14/2上期の予想を上方修正し、さらに9月には上期の着地予想及び14/2期の通期予想を上方修正した。下方修正を相次いで公表した13/2期とは対照的な展開となった。13/2期業績予想を下方修正した反省から、期初の14/2期予想が慎重な予想であったことに加え、企業業績の回復を背景に雇用環境が改善してきていることが同社の好決算につながった。加えて、「バイトルドットコム」が主力事業である同社にとって、アルバイト求人情報などが従来の紙媒体からネット経由にシフト<sup>注</sup>しつつあることが追い風となった。

販売促進のために広告宣伝費は1,616百万円(前年同期比71.4%増)と積極的に投入したほか、新卒社員の採用を増加(13年春163人、12年春比25人増)したことで人件費が2,395百万円(同10.7%増)となり、販売費及び一般管理費は4,807百万円(同24.0%増)と増加したものの、増収効果から営業利益が黒字転換(前年同期から466百万円の改善)となった。

事業別だが、メディア事業は売上高4,629百万円(前年同期比21.1%増)、セグメント利益は大規模な広告宣伝活動により768百万円(同13.2%減)だった。サイト別では、「バイトルドットコム」において、特定分野に志向性が高いユーザー向けに情報を提供し媒体力の強化を図った。具体的には、以下の通りである。

- ① 勤務先の“見える化”をコンセプトに業界初となる「制服写真閲覧機能」を掲載した。これは、アルバイト探しで勤務先の制服が気になるユーザーが 63% (同社調べ) と過半に達することに対応したものである。
- ② 「バイトル制服なりきりカメラ」アプリの提供を開始した。これは iPhone のカメラを利用したアプリケーションで、顔写真をはめ込み、様々なアルバイトの制服に着せ替えることができる。
- ③ 仕事内容を分野別に掲載した新サイト「カラーバイトル」を開始した。「バイトルブルー」は軽作業系で製造業などブルーカラー系専門サイトである。「バイトルオレンジ」は、販売系の専門サイトである。「バイトルグリーン」はフード系及び食品販売の専門サイトである。「バイトルホワイト」は、オフィス系などのホワイトカラー系専門サイトである。「バイトルイエロー」は、高収入の専門サイトである。

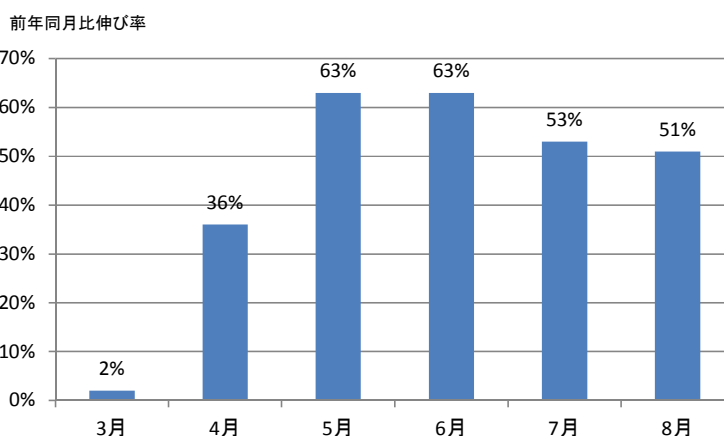
【図表 2】 14/2 期上期事業別概要

百万円	13/2期上期		14/2期上期			
	売上高	営業利益	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
メディア事業	3,822	885	4,629	21.1%	768	-13.2%
バイトルドットコム	3,166	654	4,100	29.5%	622	-5.0%
はたらこねっと	549	207	462	-15.7%	142	-31.5%
エージェント事業	560	-360	1,292	130.5%	187	黒字転換

(出所) 決算短信より証券リサーチセンター作成

加えて、同社イメージキャラクターである女優や、新たにアーティストを起用した TV のコマーシャルを主に 4 月、5 月に放映し、認知度の向上及びユーザー基盤の強化に努めた。その結果、バイトルドットコムへの応募者数が大幅に増加した (図表 3)。

【図表 3】 14/2 期上期バイトルドットコムへの応募者数



(出所) ディップ決算説明会資料より証券リサーチセンター作成

当センターでは、「バイトルドットコム」の月間平均契約社数に注目している。月間平均契約社数は13/2期上期4,059社だったが、求人数の増加を背景に14/2期上期は5,324社へと31%増加した。同期間の掲載情報数は20,884件→46,966件と約2.2倍増となった。この掲載情報数の大幅増は、ナショナルチェーンの顧客を取り込んだため、支店及び拠点数の多さから1社当りの情報件数が多いためである。

「はたらこねっと」は、検索機能の充実及び応募機能の改善で利便性の向上に努め、Web広告を中心に広告宣伝活動を展開し、認知度の向上及びユーザー基盤の強化を図ったものの、リーマンショック以降続く顧客である一部の派遣会社からの出稿減少や、自社のHPなどによる直接募集にシフトした派遣会社の影響もあり、減収減益となった。

エージェント事業は売上高1,292百万円(前年同期比130.5%増)、セグメント利益は187百万円(前年同期は360百万円の損失)だった。前述のように13/2期から入職合意基準から入職月基準に売上計上基準を変更したことで、売上高計上が後倒しとなり13/2期第1四半期の売上高は急減した。そのため、前年同期比較でみた14/2期上期売上高の伸び率は高くなっているが、13/2期上期と14/2期上期を12/2期までの会計基準に組み替えると14/2期上期売上高は前年同期比較でほぼ横ばいと試算される。この実質横ばいとなった背景は、第1四半期における常勤及び夜勤看護師の成約率が低かったものの、第2四半期会計期間に成約率の回復に努めたためである。

## > 業績見通し

### ◆ 14年2月期の同社予想

14/2期について、同社は売上高11,967百万円(前期比30.9%増)、営業利益1,000百万円(同302.5%増)、経常利益962百万円(同312.0%増)、純利益500百万円(同711.2%増)を予想している。この予想は9月時点で上方修正した通期業績予想を据え置いたものである。この通期予想は上期実績に期初の下期予想を合算したものに過ぎず、下期の見通しは期初予想のままである。予想に対して増額修正が必要となった場合に修正予想を開示するようである。事業別の売上高及びセグメント利益予想とサイト別業績予想は公表していない。

下期の施策だが、メディア事業において、引き続き契約社数及び契約単価上昇に努力する。「はたらこねっと」ではサイトを大幅にリニューアルする予定であるほか、スマートフォン向けサイトで応募機能改善を図る。また「バイトルドットコム」では、新CMキャラクターを起用した積極的な広告宣伝を開始している。エージェント事業では、第2四半期会計期間以降にみられる常勤及び夜勤看護師の成約率の向上の継続に加え、大口医療機関向けに特化した新サービスの投入を図る。



> 中期見通し

◆ 14年2月期の証券リサーチセンター予想

当センター予想のサイト別売上高は、「パイドルドットコム」は8,800百万円(前期比34.8%増)、「はたらこねっと」は1,000百万円(同5.1%減)、「ナースではたらこ」は2,067百万円(同50.9%増)、全体の売上高予想は同社予想と同水準である。前回レポートでは営業利益予想を7億円としていたが、主にエージェント事業の営業利益を赤字から均衡をやや上回る水準までの改善を見込み、同社予想と同水準の10億円を予想する。

◆ 証券リサーチセンターの中期予想

同社は、中期経営計画を発表しておらず、今後の中期戦略及び業績目標の公表が待たれる。今後の成長には、新サービスの開始、知名度上昇によるシェアアップ、顧客の囲い込みや差別化などを推進していく必要がある。当センターでは中期業績予想の見直しを行った(図表4)。15/2期以降の利益を増額修正したのは、14/2期予想を増額修正したこと、エージェント事業の営業利益が改善し、16/2期には3億円弱の利益貢献と見込んだためである。

【図表4】証券リサーチセンターの中期業績予想

		百万円	14/2 期予	15/2 期予	16/2期予
前回 13年5月 時点	売上高		11,800	12,300	12,700
	メディア事業		9,800	10,250	10,600
	パイドルドットコム		8,800	9,050	9,400
	はたらこねっと		1,000	1,100	1,100
	その他		100	100	100
	エージェント事業		2,000	2,050	2,100
	営業利益		700	750	800
	経常利益		650	700	750
	純利益		350	380	420
今回	売上高		11,967	12,500	12,900
	メディア事業		9,900	10,200	10,500
	パイドルドットコム		8,800	9,100	9,400
	はたらこねっと		1,000	1,000	1,000
	その他		100	100	100
	エージェント事業		2,067	2,300	2,400
	営業利益		1,000	1,100	1,130
	経常利益		962	1,050	1,080
	純利益		500	550	575

(注) 予想は証券リサーチセンター予想

(出所) 証券リサーチセンター

> 株主還元

◆ 8円配当を継続

同社は、経営成績を反映した適切な配当を実施する方針で、配当性向などの定量的な方針はない。上場(04年5月)直後の05/2期こそ無配だったが06/2期から13/2期まで利益水準に関係なく、年8円(株式分割修正後)の安定配当を実施してきたことから、当面8円配当が続くと思われる。

> 株価バリュエーション

◆ 株価は水準訂正の余地あり

類似企業としてインターネットサイトを利用している求人広告や人材紹介を事業の主力としている企業を取り上げ、エス・エム・エス (2175 東証一部)、エン・ジャパン (4849JQS)、リブセンス (6054 東証一部) とバリュエーション指標の比較を行った。予想基準 PER は他社と比べて低い水準にある。同社の純利益成長率が低いことに加えて、過去の業績推移が安定した上昇基調になかったためと思われる。ただ、同社の予想基準 PER が 10 倍台前半であることは、評価がやや厳しいとも思われる。

【図表 5】 株価バリュエーション同業比較

	2379東証マザーズ	2175東証一部	4849JQS	6054東証一部
	ディップ	エス・エム・エス	エン・ジャパン	リブセンス
決算期	2月	3月	3月	12月
株価(10/18、円)	595	2,534	2,095	4,870
PER(今期予想基準、倍)	13.1	38.4	27.9	77.0
PBR(前期実績基準、倍)	1.9	10.2	3.0	40.7
配当利回り(今期予想基準)	1.3%	0.0%	1.0%	0.0%
時価総額(百万円)	7,378	53,050	51,625	67,206
ROE(前期実績基準)	1.7%	26.4%	10.7%	44.2%
純利益成長率	15.0%	16.9%	—	67.2%

(注) ディップの予想は証券リサーチセンター予想、他 3 社の予想は会社予想、純利益成長率は今期予想/前々期実績の年率成長率、エン・ジャパンにおいて記載なしは前々期が変則決算だったため

(出所) 証券リサーチセンター、



## 本レポートの特徴

### ■ 魅力ある上場企業を発掘

新興市場を中心に、アナリスト・カバーがなく、独自の製品・技術を保有している特徴的な企業を発掘します

### ■ 企業の隠れた強み・成長性を評価

本レポートは、財務分析に加え、知的資本の分析手法を用いて、企業の強みを評価し、企業の潜在的な成長性を伝えます。さらに、今後の成長を測る上で重要な KPI (業績指標) を掲載することで、広く投資判断の材料を提供します

### ■ 第三者が中立的・客観的に分析

中立的な立場にあるアナリストが、企業調査及びレポートの作成を行い、質の高い客観的な企業情報を提供します

## 本レポートの構成

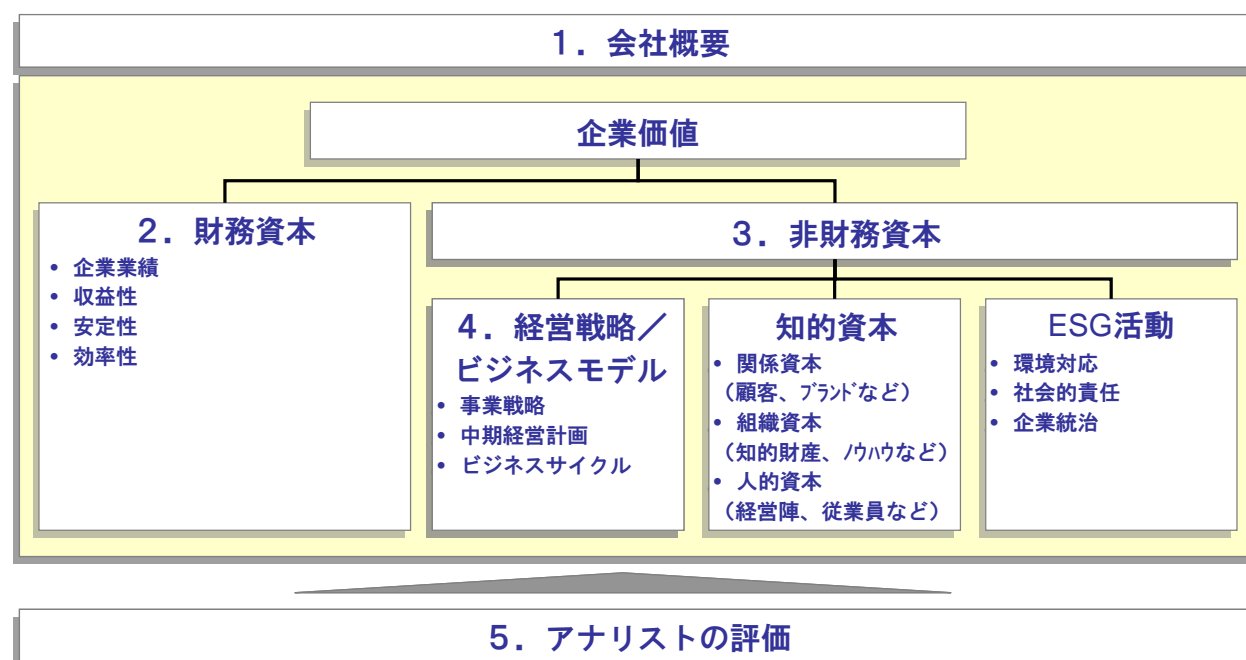
本レポートは、企業価値を「財務資本」と「非財務資本」の両側面から包括的に分析・評価しております

企業の価値は、「財務資本」と「非財務資本」から成ります。

「財務資本」とは、これまでに企業活動を通じて生み出したパフォーマンス、つまり財務諸表で表される過去の財務成果であり、目に見える企業の価値を指します。

それに対して、「非財務資本」とは、企業活動の幹となる「経営戦略／ビジネスモデル」、経営基盤や IT システムなどの業務プロセスや知的財産を含む「組織資本」、組織の文化や意欲ある人材や経営陣などの「人的資本」、顧客との関係性やブランドなどの「関係資本」、社会との共生としての環境対応や社会的責任などの「ESG 活動」を指し、いわば目に見えない企業の価値のことを言います。

本レポートは、目に見える価値である「財務資本」と目に見えない価値である「非財務資本」の両面に着目し、企業の真の成長性を包括的に分析・評価したものです。



## 指標・分析用語の説明

### ■ PER (Price Earnings Ratio)

株価を1株当たり当期純利益で除したもので、株価が1株当たり当期純利益の何倍まで買われているのかを示すものです

### ■ PBR (Price Book Value Ratio)

株価を1株当たり純資産で除したもので、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているのかを示すものです

### ■ 配当利回り

1株当たりの年間配当金を、株価で除したもので、投資金額に対して、どれだけ配当を受け取ることができるかを示すものです

### ■ ESG

Environment : 環境、Society : 社会、Governance : 企業統治、に関する情報を指します。近年、環境問題への関心や企業の社会的責任の重要性の高まりを受けて、海外の年金基金を中心に、企業への投資判断材料として使われています

### ■ SWOT 分析

企業の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の全体的な評価を SWOT 分析と言います

### ■ KPI (Key Performance Indicator)

企業の戦略目標の達成度を計るための評価指標 (ものさし) のことです

### ■ 知的資本

顧客関係や業務の仕組みや人材力などの、財務諸表には表れないが、財務業績を生み出す源泉となる「隠れた経営資源」を指します

### ■ 関係資本

顧客や取引先との関係、ブランド力など外部との関係性を示します

### ■ 組織資本

組織に内在する知財やノウハウ、業務プロセス、組織・風土などを示します

### ■ 人的資本

経営陣と従業員の人材力を示します

## 免責事項

- ・本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。特に記載のないかぎり、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。したがって、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- ・本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

## アップデート・レポート

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。